

# 一般ユーザの情報セキュリティ対策行動を促すナッジに関する研究

A study of nudge methods to encourage information security behaviors among general users

渡辺 隼斗・ネットワーク分科会・情報セキュリティ大学院大学

## 1. 研究背景

近年ますます多くの重要な情報がデジタル空間上でやり取りされるようになり、一般ユーザにおいても適切な情報セキュリティ対策を講じることが求められている。

しかし、一般ユーザが情報セキュリティ対策を十分に講じているとは言い難く、また情報セキュリティ教育を行う組織に属していない一般ユーザに教育を行うことは容易ではない。

- 一般ユーザの実施率が最も高い情報セキュリティ対策「ソフトウェアを最新にする」の実施率：56.9%（総務省, 2023）
- 過去に情報セキュリティ教育を受けたことがあると回答した一般ユーザの割合：15.5%（IPA, 2022）

## 2. 目的

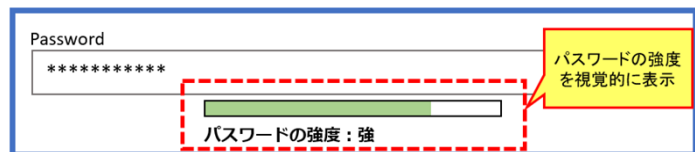
本研究では、行動経済学の理論であるナッジが一般ユーザの情報セキュリティ対策行動の促進に与える影響を明らかにする。

ナッジとは：

選択を禁じることも 経済的なインセンティブを大きく変えることもなく人びとの行動を予測可能なかたちで変える選択アーキテクチャのあらゆる要素（Thalerら, 2008）

## 3. 先行研究

- ナッジを用いることで、強固なパスワードの設定やOSのセキュリティアップデートなどの情報セキュリティ対策行動を促すことができる。
- ユーザの心理的特性に合わせてナッジをパーソナライズ化することで、情報セキュリティ対策行動を促す効果をより高めることができる。



（例）強固なパスワードの設定を促すナッジ

## 4. 課題

一般ユーザの心理的特性を事前に把握することは困難であり、一般ユーザに対して心理的特性を用いてナッジをパーソナライズ化する手法は適用しがたい。

## 5. 今後の研究計画

今後の方針として、より入手性の高い情報を用いてナッジをパーソナライズ化することで一般ユーザの情報セキュリティ対策行動を促すことができないか検討していく予定である。